

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-232442
 (43)Date of publication of application : 22.08.2000

(51)Int.Cl.

 H04L 9/10
 G09C 1/00
 H04L 9/14

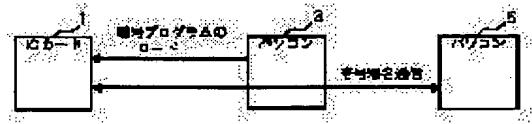
 (21)Application number : 11-030861
 (22)Date of filing : 09.02.1999

 (71)Applicant : NTT DATA CORP
 (72)Inventor : HAYASHI SEIICHIRO

(54) INFORMATION PROCESSING METHOD/SYSTEM
(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To execute all enciphered programs that can be used and to secure the storage area of an application program even in the information processor of comparatively small storage capacity.

SOLUTION: The read-only memory of an IC card 1 stores a secret key for enciphering, an enciphering system identification flag, a verification identification flag, and a verification program. The enciphering system identification flag and the verification identification flag are transmitted to a personal computer 3. An enciphered program from the personal computer 3 is received and the authenticity of the program is verified by identifying signature information from the personal computer 3 by the verification program. The read-only memory of the personal computer 3 previously stores an enciphered program group and a signature information group. The IC card 1 selects an enciphering system used for cipher/signature communication with the check of the enciphering system identification flag and the enciphered program corresponding to the enciphering system is extracted from a enciphered program group so as to transmit it to the IC card 1. Signature information corresponding to the enciphered program selected/extracted from the enciphered program group on the basis of the check of the enciphering system identification flag is selected/extracted from the signature information group and it is transmitted to the IC card 1.


LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 01.11.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C): 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号
特開2000-232442
(P2000-232442A)

(43)公開日 平成12年8月22日(2000.8.22)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード*(参考)
H 04 L 9/10		H 04 L 9/00	6 2 1 Z 5 J 1 0 4
G 09 C 1/00	6 6 0	G 09 C 1/00	6 6 0 A 9 A 0 0 1
H 04 L 9/14		H 04 L 9/00	6 4 1

審査請求 未請求 請求項の数11 O L (全 6 頁)

(21)出願番号 特願平11-30861
(22)出願日 平成11年2月9日(1999.2.9)

(71)出願人 000102728
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
東京都江東区豊洲三丁目3番3号
(72)発明者 林 誠一郎
東京都江東区豊洲三丁目3番3号 株式会
社エヌ・ティ・ティ・データ内
(74)代理人 100095371
弁理士 上村 輝之
Fターム(参考) 5J104 AA01 AA08 AA32 LA03 NA27
NA35 NA38 PA07
9A001 BB02 BB03 BB04 CC02 DD08
DD10 EE03 FZ01 JJ18 KZ56
LL03

(54)【発明の名称】 情報処理方法及びシステム

(57)【要約】

【課題】 比較的記憶容量の小さな情報処理装置でも、使用可能な全ての暗号プログラムを実行でき、応用プログラムの記憶領域をも確保できるようにする。

【解決手段】 I Cカード1の読み出し専用メモリは、暗号化のための秘密鍵、暗号方式識別フラグ、検証識別フラグ、検証プログラムを記憶する。暗号方式識別フラグ、検証識別フラグはパソコン3に送信される。パソコン3からの暗号プログラムを受信し、その正当性をパソコン3からの署名情報を検証プログラムで識別することにより検証する。パソコン3の読み出し専用メモリは、暗号プログラム群、署名情報群を予め記憶する。暗号方式識別フラグのチェックにより、I Cカード1が暗号・署名通信に用いる暗号方式を選択し、その暗号方式に対応する暗号プログラムを暗号プログラム群中から抽出してI Cカード1に送信する。I Cカード1からの検証識別フラグのチェックにより、暗号方式識別フラグのチェックに基づいて暗号プログラム群から選択、抽出した暗号プログラムに対応する署名情報を、署名情報群の中から選択、抽出してI Cカード1に送信する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 情報を暗号化して送信する第1の情報処理装置と、この第1の情報処理装置とは別の第2の情報処理装置とを備え、

前記第2の情報処理装置が、複数種類の暗号プログラムを保持し、前記第1の情報処理装置からの要求に基づいて前記複数種類の暗号プログラム中より対応するものを選択して前記第1の情報処理装置に与える情報処理システム。

【請求項2】 請求項1記載の情報処理システムにおいて、

前記第2の情報処理装置が、前記第1の情報処理装置が有するメモリよりも記憶容量の大きなメモリを有する情報処理システム。

【請求項3】 請求項1記載の情報処理システムにおいて、

前記第1の情報処理装置が、I Cカード又はP C M C I Aカードであり、前記第2の情報処理装置が、パーソナルコンピュータである情報処理システム。

【請求項4】 請求項1記載の情報処理システムにおいて、

前記第2の情報処理装置が、複数種類の暗号プログラムと共に、前記各暗号プログラムに対応する複数種類の署名情報をも保持する情報処理システム。

【請求項5】 請求項1記載の情報処理システムにおいて、

前記第1の情報処理装置が、予め保持する、前記暗号プログラムを識別するための情報を前記第2の情報処理装置に送り、前記第2の情報処理装置がその情報に基づいて前記複数種類の暗号プログラム中より対応するものを選択して前記第1の情報処理装置に与える情報処理システム。

【請求項6】 請求項4又は請求項5記載の情報処理システムにおいて、

前記第1の情報処理装置が、前記第2の情報処理装置から暗号プログラムを受けたとき、それに対応する署名情報を前記第2の情報処理装置が前記複数種類の署名情報から選択するのに必要な情報を、前記第2の情報処理装置に送る情報処理システム。

【請求項7】 請求項1記載の情報処理システムにおいて、

前記第1の情報処理装置が、前記第2の情報処理装置から与えられる暗号プログラムの正当性を検証するための手段を更に有する情報処理システム。

【請求項8】 請求項7記載の情報処理システムにおいて、

前記検証手段が、前記第2の情報処理装置から与えられる署名情報を識別することにより、前記暗号プログラムの正当性を検証する情報処理システム。

【請求項9】 請求項7又は請求項8記載の情報処理シ

ステムにおいて、

前記第1の情報処理装置が、前記検証手段により正当性を検証された暗号プログラムと、予め内蔵する秘密鍵により情報を暗号化する情報処理システム。

【請求項10】 情報を暗号化して送信する第1の情報処理装置と、この第1の情報処理装置とは別の第2の情報処理装置とを備え、

前記第1の情報処理装置が、前記第2の情報処理装置に暗号プログラムを要求する第1の過程と、

10 前記第2の情報処理装置が、前記要求に基づいて保持している複数種類の暗号プログラムの中から対応するものを選択して前記第1の情報処理装置に与える第2の過程と、

を有する情報処理方法。

【請求項11】 情報を暗号化して送信する第1の情報処理装置と、この第1の情報処理装置とは別の第2の情報処理装置とを備え、

前記第2の情報処理装置が、複数種類の暗号プログラムを保持し、前記第1の情報処理装置からの要求に基づいて前記複数種類の暗号プログラム中より対応するものを選択して前記第1の情報処理装置に与える情報処理システムにおける前記各情報処理装置としてコンピュータを動作させるためのコンピュータプログラムを担持したコンピュータ読取可能なプログラム媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、情報処理方法及びシステムに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 従来、情報処理装置同士の間で情報の授受を暗号通信により行う場合、予め各情報処理装置の読み出し専用メモリに保存しておいた複数の暗号プログラムの中から対応するものを適宜選択し、その選択した暗号プログラムを、各情報処理装置において実行する手法で対処していた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 ところで、上述した手法では、複数の暗号プログラムを各情報処理装置の、プログラムや情報の改竄がし難いとされる読み出し専用メモリに予め保存しておくため、上記暗号プログラムの信頼性が高く、正当な暗号プログラムにより適正に情報の暗号通信が行えるという利点がある。

【0004】

しかし、情報処理装置が、例えばI CカードやP C M C I Aカードのような比較的小規模な情報処理装置である場合には、それに応じて読み出し専用メモリの記憶容量も当然小さなものにならざるを得ない。そのため、使用が想定され得る複数の暗号プログラムを全て保存しようとすると、上記メモリでは、例えば応用プログラム（アプリケーションプログラム）を保存するための記憶容量が不足するという問題が生じる。また、上記

3

メモリにおいて、応用プログラムの記憶領域を確保しようとすれば、上記暗号プログラムを全て保存するための記憶容量が不足することになり、保存できるプログラムが制限されるという問題が生じる。

【0005】従って本発明の目的は、比較的記憶容量の小さな情報処理装置を用いる場合でも、使用が想定され得る全ての暗号プログラムを実行することができ、且つ、応用プログラムの記憶領域をも確保できるようにすることにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の第1の側面に従う情報処理システムは、情報を暗号化して送信する第1の情報処理装置と、この第1の情報処理装置とは別の第2の情報処理装置とを備え、第2の情報処理装置が、複数種類の暗号プログラムを保持し、第1の情報処理装置からの要求に基づいて複数種類の暗号プログラム中より対応するものを選択して第1の情報処理装置に与える。

【0007】上記構成によれば、第2の情報処理装置が、第1の情報処理装置からの要求に基づいて、保持している複数種類の暗号プログラム中より対応するものを選択して第1の情報処理装置に与える。そのため、第1の情報処理装置が比較的記憶容量の小さな情報処理装置であっても、使用が想定され得る全ての暗号プログラムを実行することができ、応用プログラムの記憶領域をも確保できる。

【0008】本発明の第1の側面に係る好適な実施形態では、第2の情報処理装置は、第1の情報処理装置が有するメモリよりも記憶容量の大きなメモリを有する。例えば、第1の情報処理装置としてはICカード又はPCMCIAカードが挙げられ、第2の情報処理装置としてはパーソナルコンピュータが挙げられる。

【0009】また、上記実施形態では、第2の情報処理装置は複数種類の暗号プログラムと共に、各暗号プログラムに対応する複数種類の署名情報をも保持する。第1の情報処理装置は、予め保持する、暗号プログラムを識別するための情報（例えば、暗号方式識別フラグ）を第2の情報処理装置に送り、第2の情報処理装置がその情報に基づいて複数種類の暗号プログラム中より対応するものを選択して第1の情報処理装置に与える。

【0010】また、上記実施形態では、第1の情報処理装置が、第2の情報処理装置から暗号プログラムを受けたとき、それに対応する署名情報を第2の情報処理装置が複数種類の署名情報をから選択するのに必要な情報（検証識別フラグ）を、第2の情報処理装置に送るようになっている。第1の情報処理装置は、第2の情報処理装置から与えられる暗号プログラムの正当性を検証するための手段（例えば、検証プログラム）を更に有する。この検証手段は、第2の情報処理装置から与えられる署名情報を識別することにより、暗号プログラムの正当性を検証する。更に、第1の情報処理装置は、検証手段により

4

正当性を検証された暗号プログラムと、予め内蔵する秘密鍵とにより情報を暗号化する。

【0011】本発明の第2の側面に従う情報処理方法は、情報を暗号化して送信する第1の情報処理装置と、この第1の情報処理装置とは別の第2の情報処理装置とを備え、第1の情報処理装置が、第2の情報処理装置に暗号プログラムを要求する第1の過程と、第2の情報処理装置が、その要求に基づいて保持している複数種類の暗号プログラムの中から対応するものを選択して第1の情報処理装置に与える第2の過程とを有する。

【0012】本発明の第3の側面に従うプログラム媒体は、情報を暗号化して送信する第1の情報処理装置と、この第1の情報処理装置とは別の第2の情報処理装置とを備え、第2の情報処理装置が、複数種類の暗号プログラムを保持し、第1の情報処理装置からの要求に基づいて複数種類の暗号プログラム中より対応するものを選択して第1の情報処理装置に与える情報処理システムにおける各情報処理装置としてコンピュータを動作させるためのコンピュータプログラムをコンピュータ読取可能に担持する。

【0013】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を、図面により詳細に説明する。

【0014】図1は、本発明の一実施形態に係る情報処理システムの全体構成を示すブロック図である。

【0015】上記システムは、図1に示すように、比較的小規模な情報処理装置の一例としてのICカード1と、比較的大規模な情報処理装置の一例としての複数台のパーソナルコンピュータ（パソコン）3、5とを備える。

【0016】ICカード1は、パソコン3にセッティングされることで、パソコン3との間で必要なプログラムや各種情報の授受を行う。ICカード1の読み出し専用メモリ（図示しない）には、暗号化のための秘密鍵（図示しない）を始め、暗号方式識別フラグ（図2に示す）や、検証識別フラグ（図3に示す）等が予め格納される。上記メモリには、更に、検証プログラム（又は署名検証プログラム）（図示しない）も格納される。この検証プログラムとしては、例えば上記秘密鍵等と同様に予め上記メモリに格納される署名検証暗号プログラムか、或いはパソコン3との間での通信中にパソコン3から与えられ、上記メモリに格納される署名検証暗号プログラム等が挙げられる。

【0017】上記暗号方式識別フラグ、及び上記検証識別フラグは、パソコン3からの送信要求に応じてICカード1からパソコン3に夫々送信される。ICカード1は、また、パソコン3から送信された暗号プログラムを受信して上記メモリに格納しておき、上記暗号プログラムとは別にパソコン3から送信された上記暗号プログラムに対応する署名情報を、上記検証プログラムを用いて

識別することにより、上記暗号プログラムの正当性を検証する。ICカード1は、更に、上記暗号プログラムの正当性が検証されたとき、その暗号プログラムと上記秘密鍵とに基づき、パソコン5に送信すべき情報をICカード1内において暗号化すると共に暗号化した情報を、パソコン3を介してパソコン5に送信する。

【0018】パソコン3は、上述したように、ICカード1がセッティングされることでICカード1との間で必要なプログラムや各種情報の授受を行うのみならず、ICカード1とパソコン5との間で行われる暗号・署名通信を媒介する。パソコン3の読み出し専用メモリ(図示しない)には、ICカード1に送信するための暗号プログラム群や、各々の暗号プログラムに対応して設定される署名情報群(いずれも、図4に示す)等が予め格納される。上記メモリには、必要に応じて上述した検証プログラム(つまり、署名検証暗号プログラム)が格納される場合もある。

【0019】パソコン3は、ICカード1からの暗号方式識別フラグをチェックすることにより、ICカード1がパソコン5との間で行う暗号・署名通信に用いる暗号方式を選択し、この選択した暗号方式に対応する暗号プログラムを上述した暗号プログラム群の中から抽出してICカード1に送信する。パソコン3は、また、ICカード1から送信された検証識別フラグをチェックすることにより、上記暗号方式識別フラグのチェックに基づいて上記暗号プログラム群から選択、抽出した暗号プログラムに対応する署名情報を、上述した署名情報群の中から選択、抽出してICカード1に送信する。パソコン3は、更に、ICカード1とパソコン5との間で行われる暗号・署名通信を媒介する。

【0020】パソコン5は、上述したように、パソコン3を媒介としてICカード1との間で暗号・署名通信を行う。

【0021】図2は、図1に記載したICカード1が保持する暗号方式識別フラグを示す説明図である。

【0022】暗号方式識別フラグ7は、上述したように、ICカード1からパソコン3に送信され、暗号・署名通信においてICカード1が使用する暗号方式を選択するためにパソコン3によりチェックされるもので、図2に示すように、暗号方式識別コード9と、版情報11と、鍵長13とを備える。上記チェックにより、いずれかの暗号方式が選択され、その選択された暗号方式に対応する暗号プログラムが、上述した暗号プログラム群の中から抽出される。

【0023】暗号方式識別コード9は、FEAL(ファースト・エンクリプション・アルゴリズム)、DES(データ・エンクリプション・スタンダード)、RSA(リベスト・シャミール・アドルマン)、及びESIGN(エレクトリック・シグネチャー)等の暗号方式を識別するためのコードである。

【0024】版情報11とは、上述した各暗号方式識別コード9に係るバージョン情報である。

【0025】鍵長13とは、暗号に使用する鍵のビット長を示している。

【0026】図3は、図1に記載したICカード1が保持する検証識別フラグを示す説明図である。

【0027】検証識別フラグ15は、上述したように、ICカード1からパソコン3に送信され、パソコン3によりチェックされるもので、図3に示すように、検証方式識別コード17と、版情報19と、鍵長21とを備える。上記チェックにより、上述した暗号方式識別フラグ7のチェックに基づき、上記暗号プログラム群の中から選択、抽出された暗号プログラムに対応する署名情報を、上記署名情報群の中から選択、抽出される。

【0028】検証方式識別コード17は、RSA署名情報及びESIGN署名情報等の署名情報が、上記各暗号方式(各暗号プログラムFEAL、DES、RSA、ESIGN)のいずれに属するかを識別するためのコードである。

【0029】版情報19とは、検証方式識別コード17のバージョン情報である。

【0030】鍵長21とは、上述した鍵長13におけると同様、暗号に使用する鍵のビット長を示している。

【0031】図4は、図1に記載したパソコン3が保持する暗号プログラム群及びそれらに対応する署名情報群を示す説明図である。

【0032】図4に示すように、暗号プログラム群23は、FEALプログラム27と、DESプログラム29と、RSAプログラム31と、ESIGNプログラム33とを含む。署名情報群25は、上記各暗号プログラム(27~33)に夫々対応して設定される複数の署名情報、即ち、RSA署名情報35及びESIGN署名情報37から構成される。なお、署名情報群25を構成する署名情報の種類は、上記RSA署名情報35及びESIGN署名情報37のみに限定されるものではなく、例えば図3に示した鍵長21の長さに応じて、更に別の種類の署名情報が追加され得る。

【0033】暗号プログラム群23に含まれる各暗号プログラム(27~33)のいずれかは、ICカード1から暗号方式識別フラグ7がパソコン3に送信されたことに起因してパソコン3により読み出され、ICカード1に送信される。また、署名情報群25を構成するRSA署名情報35及びESIGN署名情報37のいずれかは、ICカード1から検証識別フラグ15がパソコン3に送信されたことに起因してパソコン3により読み出され、ICカード1に送信される。

【0034】図5は、図1に記載した情報処理システムにおける各部の処理流れを示す説明図である。

【0035】図5において、ICカード1がパソコン3にセッティングされると、ICカード1は、まず、パソ

コン3からの送信要求に応じて暗号方式識別フラグ7をパソコン3に送信する(ステップS41)。パソコン3側では、受信した暗号方式識別フラグ7をチェックすることにより(ステップS42)、ICカード1がパソコン5との間で行う暗号・署名通信に用いる暗号方式を選択する。そして、この選択した暗号方式に対応する暗号プログラムを上述した暗号プログラム群の中から抽出し(ステップS43)、ICカード1に送信する(ステップS44)。

【0036】 ICカード1側では、受信した暗号プログラムを読み出し専用メモリに格納すると共に(ステップS45)、パソコン3からの送信要求に応じて検証識別フラグ15をパソコン3に送信する(ステップS46)。パソコン3側では、受信した検証識別フラグ15をチェックすることにより(ステップS47)、上記暗号方式識別フラグ7のチェックに基づいて上記暗号プログラム群23から選択、抽出した暗号プログラムに対応する署名情報を、上述した署名情報群25の中から選択、抽出する(ステップS48)。そして、その署名情報を、ICカード1に送信する(ステップS49)。

【0037】 ICカード1側では、受信した署名情報を、上記検証プログラムを用いて識別することにより、上記メモリに格納した暗号プログラムの正当性を検証する(ステップS50)。この結果、上記暗号プログラムの正当性が検証されると、ICカード1は、その暗号プログラムと上述した暗号化の秘密鍵とに基づき、パソコン5に送信すべき情報をICカード1内において暗号化すると共に、暗号化した情報をパソコン3を介してパソコン5に送信する(ステップS51)。これにより、一連の処理動作が終了する。

【0038】 以上説明したように、本発明の一実施形態によれば、ICカード1が使用することを想定した複数種類の暗号プログラムを、パソコン3の読み出し専用メモリに格納するため、ICカード1の読み出し専用メモリも記憶容量の大きさ如何に拘らず、ICカード1は多数の暗号プログラムを使用することができる。しかも、ICカード1の読み出し専用メモリの記憶領域が上記多数の暗号プログラムによって占有されることがないため、ICカード1の読み出し専用メモリに応用プログラムを格納することも可能である。

【0039】 上述した内容は、あくまで本発明の一実施

形態に係るものであって、本発明が上記内容のみに限定されることを意味するものでないのは勿論である。

【0040】

【発明の効果】 以上説明したように、本発明によれば、比較的記憶容量の小さな情報処理装置を用いる場合でも、使用が想定され得る全ての暗号プログラムを実行することができ、且つ、応用プログラムの記憶領域をも確保できるようにすることができる。

【図面の簡単な説明】

10 **【図1】** 本発明の一実施形態に係る情報処理システムの全体構成を示すブロック図。

【図2】 図1に記載のICカードが保持する暗号方式識別フラグを示す説明図。

【図3】 図1に記載のICカードが保持する検証識別フラグを示す説明図。

【図4】 図1に記載のパーソナルコンピュータ(パソコン)が保持する暗号プログラム群及びそれに対応する署名情報群を示す説明図。

20 **【図5】** 図1に記載のシステムにおける各部の処理流れを示す説明図。

【符号の説明】

1 ICカード

3、5 パーソナルコンピュータ(パソコン)

7 暗号方式識別フラグ

9 暗号方式識別コード

11、19 版情報

13、21 鍵長

15 検証識別フラグ

17 検証方式識別コード

30 23 暗号情報群

25 署名情報群

27 F E A L (ファースト・エンクリプション・アルゴリズム) プログラム

29 D E S (データ・エンクリプション・スタンダード) プログラム

31 R S A (リベスト・シャミール・アドルマン) プログラム

33 E S I G N (エレクトリック・シグネチャー) プログラム

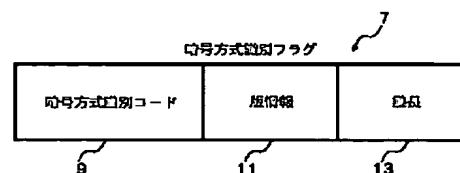
40 35 R S A 署名情報

37 E S I G N 署名情報

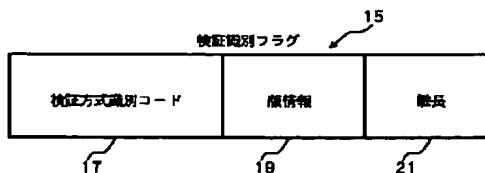
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

